



AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS

THE Y'S MEN'S CLUB OF K O B E

THE SERVICE CLUB OF THE YMCA

CHARTERED FEBRUARY 17 · 1930



- ブラザークラブ：高雄（台湾） チェンマイ（タイ） 米子（西日本区）
- 国際会長主題：世を照らす光となろうー恵みを愛もて分かち合おう
- アジア会長主題：歳月はY'sをワイズ（賢者）にするー行動が活力を呼び覚ます
- 西日本区理事主題：先頭に立ってワイズの光を輝かそう、クラブで、地域で、国際社会で
- 六甲部部長主題：柔軟な創造で愚直に積極的なワイズライフを楽しもう
- クラブ会長主題：クラブの伝統を踏まえ、クラブの新しい「顔」を作るべく、それぞれの役割を楽しもう

2013年5月

LT (leader-training) 強調月間

今月の聖句

腰に帯を締め、ともし火をともしていなさい。主人が婚宴から帰って来て戸をたたくとき、すぐに開けようと待っている人のようにしていなさい。

ルカによる福音書12章35、36節

5月11日(土曜日)第1例会

場所：井出宅

開会点鐘 15時00分 進藤啓介会長

ドライバー 進藤啓介会長

ワイズソング

聖句朗読・開会祈禱

[プログラム]

クラブ討議

①地域奉仕の具体策

②リーフレット

③東日本支援

④次年度体制

など。

報告および事務連絡など

ハッピーバースディ

閉会点鐘 16時30分 進藤啓介会長

※閉会后、一品持ち寄りによる会食懇談。

5月誕生日おめでとう

4日 菅原 順子

21日 山本 洋子

27日 河合 純子

4月在籍者

4月出席者

4月出席率

19名	メン 14名	74%
広義会員	メネット 8名	(含メイキャップ)
0名	コメット 0名	前月出席率
合計 19名	ゲスト 2名	74%
	合計 22名	

4月分BFポイント

切手 0円 現金 14850円

本年度累計

切手 0円 現金 14850円

5月28日(火)第2例会 19:00~

◎6月例会プログラム確認

◎次年度に向けて

◎その他事務連絡

第2例会においても、重要な議題を協議し決めてゆきます。都合をつけて出席をお願いします。

会長 進藤啓介

副会長 尾上尚司

会計 森 章一

書記 山本亮司

連絡主事 山本亮司

口座番号 三井住友銀行三宮支店 普通預金No. 1494643 名義人 神戸ワイズメンズクラブ 会計 橋本正晴

例会：第1例会 毎月第2火曜日 18:30 第2例会 毎月第4火曜日 19:00

会長メッセージ どんなクラブになるのかな

進藤啓介

春が来ました。花が咲きました。いつの間にやら10か月がたっていました。早いものです。実は、5月例会をずーっと楽しみにしていました。又、井出さんのお宅を借りることになりましたが、来年度に向けたクラブ活動のお話がザックバランに、皆で出来る機会が与えられた事を大変感謝しています。

先月もお話ししましたが、私としてはとりあえず年初の思いどおりにクラブは運営されてきたと思っています。5月例会では是非、来年度のクラブ活動の方向性を決めたいと思います。具体的に考えれば、一つ目は新しい取り組みを決める事。二つ目はその課題にどう取り組めば全員参加でき、クラブとして一体で活動できる方法をだと思えます。是非皆さんの御力、お知恵、ご協力をよろしく願います。出来る事なら、特に地域活動において我々にできる事をじっくり、ザックリ、気楽に話せばいいなと思います。神戸も地域ですが、東北も地域です。国際でいえば、タイも地域です。幅広く目を向けながら、来年度以降のクラブ活動の方向性を探っていきたいと思えます。

ただ、神戸YMCAの建て替え工事に絡み、我々の例会開催場所等、速やかに解決しなければならぬ問題も抱えていますし、クラブにとって気になるEMC等々話したい事は沢山あります。食事をしながらみんなで話し合しましょう。是非、沢山の方のご参加をお待ち申し上げます。

4月第1例会

鵜丹谷 剛

今回、神戸クラブの例会として(私の知る限りでは初めて)広報・クラブリーフレット作りに関しての話し合いを行いました。次年度より神戸クラブとしてもいよいよクラブリーフレットを完成させ、各メンバーの対外的な宣伝や流布などのツールとして活用してもらうべく、各位の知恵を出し合い、よりよい物を創り出す為の会として開催しました。

もとより、進藤会長体制発足以来、従来以上に各事業員が主体となり企画・進行する例会運営の手法を導入、及び実施をしてきました。今回はその中で広報委員が一年の『取り』を努める例会であり、いわば一年の歩みを今後広報という立場でどのように軌跡作りをし、活動を広めていくかの意味をも兼ね備える点において、意義ある位置づけの例会であったと感じました。

まずは広報委員長の井出ワイズより、画像を通じ他クラブのリーフレット紹介や、及び基本的な掲載必要項目などの例示などを挙げて頂くと共に、クラブリーフレットの作成意味なども各メンバーへ説明などして頂きました。その後、各メンバーより、掲載した方が良い内容や、

あるいは"見やすい""伝わりやすい"リーフレットの内容などについて意見交換がもたれました。

- その中での主たる幾つかの総括意見として、
- ①ワイズ特徴の、奉仕クラブ・イエスキリスト精神に基づく活動、国際的組織の掲載
 - ②奉仕のみならず親睦と交流の楽しさを伝える内容掲載
 - ③多くの文字よりも写真などビジュアルで訴え、わかりやすい内容への工夫
 - ④国内外問わず対外的な地域社会への奉仕活動や貢献などの内容掲載

上記などが推奨される意見も多く、また同時に、リーフレット自身の品質や形状工夫の必要性や、また、内容作成にあたり過去作成のEMC資料など参照、検証してはどうかの意見など、相応に活発な意見交換を行えた意味でも有意義な例会であったと思います。

これら意見も踏まえ、今後広報委員にて、より具体的な作成作業へとステージを移し、次年度に踏まえた準備に取り掛かっていく次第です。また同時に本例会は、神戸クラブとして現在不十分な対外的な活動や貢献などへの取組みを加速化させる良いきっかけ作りとなった例会でもあったように思います。

<今月の聖句に添えて>

イエスの時代の召使は主人の帰宅まで玄関で待っているのが常識であった。桶に水を張り主人の足をきれいに洗い、腰につけていた布（タオル）で拭いてもらってから家に上がる習慣があった。帰宅が何時になるかわからないので、召使は目を覚ましていなければいけない。キリストの再臨の時が想定される。（山根貞夫司祭@神愛修女会・深和ホーム）

芦屋ワイズメンズクラブ 15周年記念講演会に参加して

長内靖子

4月21日(日)ラポルテ・ホールにて

芦屋クラブ会長・島田恒氏の開会宣言、神戸YMCA総主事・水野雄二氏、関西学院同窓会芦屋支部長・細谷志朗氏の来賓挨拶に続きまして、音楽演奏 プティ・タ・プティの「いざたて」（ワイズソング）で始まりアンコールを入れて全10曲楽しみました。そして、第15代関西学院院長 ルース・M・グルーベル氏による「杯が溢れる人生」の講演です。

杯が溢れるとは、お祝い、喜びの時の豊かな気持ちを表し、溢れるという気持ち。自分も幸せ、周りもウキウキする。どうしたら溢れさせることができるのか？与えられた時間を豊かにするには、プラス思考になるには、

◎感謝の気持ち（自分が恵まれていることがわかる）、人に感謝を伝える（朝起きたらありがとうと伝えるeメールでも言葉にしてもそうすることが自分にもいい効果がある）。

・笑顔が大切(毎日今まで以上の笑顔でいると自分の心も癒される)。

・毎晩3つの感謝をする（寝る前に頭の中で、空がすがすがしかった、この人に会えた！等）。21日間続けると落ち込んでいた人が前向きになる。幸せ度を上げる効果がある。

◎楽しい時を探しなさい。毎日楽しいことを15分長くする(散歩、おしゃべり、楽しい運動を続けると、自分の気持ちもよい影響が出る)。

◎沈黙の時間を持つ。

2分でいい。静かな時間を見つけるには脳の回復に貢献する。

沢山の友人より一人の何でも話せる人がいることが大切。

ワイズメンズクラブの活動の人の為にするということは本人にとってもいいこと。そして活動の中で出会う人との絆、自身の才能を生かして社会のために使うことYMCA活動を支えることが幸せとなる。

スピリチュアルな面（魂）を大事にしましょう。宗教に関心を持つ人は魂の支えを求めることができる。人間の深いところの幸せにつながる。幸せなお友達を1人増やしたら、自分の幸せが9%増える。ワイズメンズクラブのメンバーになることは、幸せにプラスになる！

と、ワイズの入会に繋がるようにお話しくさいました。

その後、ワイズメンズクラブ以外の方で超満員の会場で、島田氏が芦屋ワイズメンズクラブの紹介をされ、入会してみようと思うような上手な流れの15周年記念講演会でした。

お知らせ

▼神戸YMCA創立記念日礼拝

日 時：2013年5月8日(水)18時30分～20時30分

会 場：神戸YMCAチャペル

メッセージ：「神の呼びかけに答えるYMCA」

山本俊正 氏

関西学院大学教授・宗教主事。日本基督教団ロゴス教会主任牧師。日本YMCA同盟常議員。

▼2013年度定期総会

日 時：5月31日(金)午後6：30～8：30

場 所：神戸YMCA チャペル

訃報

井上睦美メネットが、4月12日にご逝去なされ、15日、関西学院教会で告別式がとりおこわれました。こころからご冥福をお祈り申し上げます。

ワイズメンズクラブ西日本区メネット国内事業・六甲部

そっと人に寄り添う「こころのケアを考える」講習会

4月20日（土）神戸YMCAチャペル

長内靖子

メネット事業主査・宗利富士子氏とメネット事業主・任野村靖子氏の開会挨拶に続き、以下の3点のテーマで講習会が進められた。

① 高校生とリーダーに学ぶ

東日本大震災復興支援

・ボランティアバス復興ワークチーム（2012.7.23～26）に参加した啓明学院高校の男女学生4名ずつ2組の報告が行われた。7月23日の出発挨拶から始まり、現地の竹やぶの除去、納屋の瓦礫撤去作業を終え、次の日、渡辺さんのイチゴ農園でビニールハウスの組立。2日間の作業を通して「できるときにできるだけをする」という大切さを学んだ。26日啓明学院で解散式。バスの掃除と長靴を洗った。ボランティアとは、自分たちの小さな力の積み重ねで始めて大きな力になる。「イチゴ農園のお母さん、お父さんの笑顔を見てよかった。忘れていないということ東北の皆さんに伝えて様々な形で関わっていききたい」

・余島サマーダイヤモンドキャンプ（2012.7.29～8.1）。福島の子供たちに思いっきり遊んでもらいたいとトラウマについて勉強していたが、迎えに行った岡山駅で元気な様子に安心した。たくさんのプログラムで子供達がどんどん明るくなって、元気になった。「また、余島へ行きたい。また釣りをしたい、僕もボランティアリーダーになる」と言ってくれた。「この3泊4日の短い時間でしたが、一生忘れられない宝物です。自分のできることで福島に関係していききたい。先日の神戸の強い揺れの時も『大丈夫か？』と福島からメールをもらった。時間が経っても繋がっていると感じた」

・神戸YMCA震災復興支援リーダー会・大学3年大島萌さんがリーダー会で行っていることの報告。

現在は、キャンプ、街頭募金、チャリティランでのTシャツ販売、凧揚げ、被災地に行った人から生の声を聴く活動をしている。今後は、子供たちの心に寄り添って活動し、出会いを大切にしたい。これから自分のできることを考えることができるようになった。

② 2年経って今わかってきた現状

光永尚生氏（前仙台YMCA総主事・熊本YMCAむさしYMCA館長）は、昨年1年間仙

台に住んで復興事業に関わった（啓明学院の学生達とも仙台で会ったそうです）。被災地という地名はなく被災者という人もいない。それぞれに名前がちゃんとある。しかし、2年経って、片付けはできているが、住んでいた方々は戻っていない。コミュニティも戻っていない。イチゴ農家の岩佐さんと渡辺さんを集中して支えたのは、まず小さなコミュニティから始めようとしたから。現地での心のケアは、そっと寄り添わないとだめ。受ける側の考えに合っているか、相手に苦痛を与えていないか。絆という字は半分の糸、それを引いてそっと寄り添う。地道にこういった活動が続けることが大切である。

③ こころのケアを考える講習会

宗方比佐子氏（金城学院大学 多元心理学科教授）

宗方氏著の入門書「こころのケアを考える」の以下の内容に添って話は進められた。

- 1 心のケアとは
- 2 被災者の心の状態
- 3 心の回復に関する理論
- 4 専門家による治療技法
- 5 支援者の心構えや注意点
- 6 支援スキル
- 7 心のケアに有効なリラクゼーションの方法
- 8 心のケアに役立つ芸術療法

阪神淡路大震災の統計が多く使用されている本書には、引き続き東日本大震災の被災者に寄り添うための方法、注意点が示されている。被災者の心の傷は複合的であり、より深く厳しい。言っていること、いけないこと、していること、慎むべきことをすべて理解し共感して寄り添うのはなかなか難しい。専門家による治療でも、語りたくない人には無理に語らせないし、不要な刺激も与えないようにしている。

2時間に及ぶ講習会の途中で、何度か心のケアに有効な呼吸調整の呼吸の仕方、筋弛緩法の筋肉を弛緩させる方法の実技指導があり、リラクゼーションの実際を体験できた。そして最後に、心のケアに役立つ芸術療法としての「人生の木」を受講者それぞれが書き、この木を作成することによって、大切な人との絆やかかわりが強まることを実感した。



Kobe Menettes

Declared March 10·1965

井上睦美様を偲んで

城 邦子

社交的な方でした。睦美様を取り巻くお身近の方すべてに愛情深く、優しい方でした。特にご家族の方に愛情深くお部屋にはお嬢様方の写真を華やかに飾られておりました。そしていつも最新の写真に入れ替えられ詳細に私に説明して下さい、お幸せなご様子でした。

ご同居されていた妹様をはじめ、ご主人様の介護も、また今年2月に亡くなられたご主人様のお姉様に及ぶまで心を尽して献身的にお世話をされていました。

ある時はタクシーの運転手をされていた牧師の資格をお持ちの方に身仕度や身辺のお整えのお世話をされ、教会の牧師職をと赴任教会先までお世話をされました。又ある時全盲で無名の歌手であった新垣勉様を支援し、ご自宅でホームコンサートを何度か開催されました。又のちに NHK や他のテレビ番組に出演されるようになってからもチャペルコンサートを開催されご高名な歌手になられた後も支援されました。本当に心優しい社交的な方でした。

お洒落な方でした。独特の精緻なセンスをお持ちでお召し物、アクセサリやまたお出かけ先も洒落た所がお好みでした。お一人住まいになられてからも、花柄の外出着が目の前に整然と美々しく置かれており、いつでも外出の準備が整っておりました。

又グルメな方でありました。聖和大学や YMC A の交換学生さんに日本料理を振舞われるのと同時に、料理法も伝授なさいました。調理師免許をお持ちの本格的なグルメさんでした。

又大変な努力家でもありました。調理師免許もそちら方面（飲食業）の経験がないまま苦労や努力を重ねて、資格取得されたと伺いまし

た。車の免許はお母上様の病院通いの為に50歳を過ぎてからお取りになったとの事でした。実地試験には16回も臨まれての努力の結果、合格を勝ち取られたといつも明るく、楽しそうに話して下さいました。私もこの年になって困難に出会ってくじける時には、睦美様のこのお話を、思い出し心底から勇気づけられ、励まされ、努力する事の大切さを学びました。心から感謝しております。

お身近の多くの方に愛情深くあられ、報いを求めない無償の愛をこめて接しておられた睦美様でした。それはキリストの愛に導かれた行為だったと改めて知りました。聖書にあるように「地の塩であれ」というお父上様からの教えを実践されていたこととのことで、「なるほど」と得心いたしました。私はお傍にいて劇的な睦美様の生活ぶりを度々拝見しておりました。今改めて感激しております。有難うございました

メネット会にお誘いして何年になりますでしょうか。いつも時間の許す限り快く参加、ご活躍されました。精力的にメネット会を始め芦屋市モンテベロ国際交流協会、いけばなインターナショナル、聖和大学同窓会に、関学教会の家庭集会にと又芦屋ワイズメンズクラブの例会にと誠心誠意ご活躍なさいました。

今は神様のみもとで安らかに憩われておられることと、心からご冥福をお祈り申し上げます。

睦美様、お別れするのは淋しい限りですが又お会いできるその日まで さようなら！

